

1. 建物概要

建物名称	仮称三共製作所 Factory Lab・第4工場	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.5	/5	      ふつつ 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.1	/5	      ふつつ 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.2	/5	      ふつつ 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.1	/5	      ふつつ 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.5
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④主な内装仕上げ材をコンクリート洗い出しとする。	Q-1 2 2.1 2.1.2 Q-1 3 3.1 3.1.3 3.2 3.2.1 Q-2 2 2.2 2.2.1 2.2.2 2.2.3 2.2.4 2.2.5 2.2.6	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の既存樹木を極力保存することで、既存の生物環境を保全する。 ⑥敷地内の緑化面積割合を大きくすることで、敷地内の温熱環境を緩和する。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦BPI=0.67	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪便器は節水型機器を用いる。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築物躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2が一般的な建築物と同等である。 ⑮敷地内の緑化面積割合を大きくすることで、敷地外への熱的な影響を緩和する。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	3.1
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰弱電設備が災害時に使用できるようにする。	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.2
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高を3.5m確保している。	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	3.1
	■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内の既存樹木を極力保存することで、既存の生物環境を保全する。 ⑥敷地内の緑化面積割合を大きくすることで、敷地内の温熱環境を緩和する。	Q-3 1 2 3 3.2	⑥ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮敷地内の緑化面積割合を大きくすることで、敷地外への熱的な影響を緩和する。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)三共製作所 Factory Lab・第4	階数	地上2F
建設地	静岡県菊川市牛淵字ウツギ沢887-	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、無指定地域、22条特	平均居住人員	65 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,450 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年11月26日
敷地面積	49,150 m ²	作成者	江口 英樹
建築面積	3,460 m ²	確認日	202●年●月●日
延床面積	4,093 m ²	確認者	〇〇〇
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境品質 G 環境負荷 L 100 50 0 0 50 100 3.0 1.5 BEE=1.0 0.5 0 C B+ B- A S 44 1.1 47			標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ 0 46 92 138 (kg-CO ₂ /年・m ²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)			Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境
2-4 中項目の評価(バーチャート)			Q のスコア = 3.1
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9 5 4 3 2 1 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境 3.0 2.6 2.1 4.2			Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2 5 4 3 2 1 機能性 耐用性 対応性 3.5 3.0 3.1
Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.3 5 4 3 2 1 生物環境 まちなみ 地域性・ 4.0 3.0 3.0			LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.3 5 4 3 2 1 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的 5.0 3.0 3.0 2.5
LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8 5 4 3 2 1 水資源 非再生材料の 汚染物質 3.4 2.5 3.0			LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1 5 4 3 2 1 地球温暖化 地域環境 周辺環境 3.5 3.0 3.0
3 設計上の配慮事項			その他
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。			
Q1 室内環境 事務室の作業性に配慮して全般照明による照度を500lx以上とする。 シックハウス対策に配慮して、内装仕上げ材をF☆☆☆☆以上とする。			Q2 サービス性能 執務室が明るく開放的になるよう、吹き抜けと開口部を設ける。 従業員の快適性に配慮し、ゆとりのある共用部を設ける。 内外仕上げ材は経年で劣化しにくいコンクリートを使用。
Q3 室外環境(敷地内) 周辺の緑地を継承し、緑豊かな屋外環境を維持する。			
LR1 エネルギー 外壁、屋根には断熱材を設置する。 照明は効率の高いLEDを採用する。			LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される